

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設名 さつき保育園中村橋

施設所在地 東京都練馬区貫井2-1-26

法人名 フミ・コーポレーション株式会社

1. (活動のテーマ)

生き物

(テーマの設定理由)

行事の際保護者の方が安来節「どじょうすくい」を披露してくれたことをきっかけに「ドジョウって？」と興味を持った。お散歩コースに石神井川も流れていることで水辺の生き物に興味を持ち過ごしているため生き物を飼育する中で生き物を大切にする心、責任感、探究心を育む

2. (活動スケジュール)

1. どじょう飼育を開始 (餌やり、水槽掃除、水草の買い出し) (10月～3月)
2. 水辺の生き物について疑問や気が付いたことを発表しあう (12月)
3. ドジョウのほか、子どもたちが興味を示した水辺の生き物を追加飼育 (2月)
4. 子どもたちと探究活動

3. (活動の為に準備した素材や道具、環境の設定)

素材

水槽・水草・どじょう・めだか・アカハライモリ・エビ・お掃除クリーナー・砂利・えさ・
図鑑・絵本・タライ・虫眼鏡・ビニールテープ

環境

クラス単位で探究活動を行った
一人一人の探究を見守り共感する言葉がけを心掛けた
生き物コーナーは全園児が見やすいよう高さや、各クラスの導線を考え設置した
保護者の方も興味を持ち子どもたちと一緒に探究してもらえよう配置を工夫

4. (探究活動の実践)

- ・どじょうの飼育
図鑑を見ながら目の前にいるのはどの種類のドジョウだろう？と考える
- ・飼育の方法を図鑑など見ながら考え意見を出し合う
- ・名前を自分たちで付けたことで親しみをもち飼育を始める
- ・水草を飼いに行く事でお店の人との関わりや、お金のやりとりを経験する

- ・違う種類のドジョウと、メダカ、アカハライモリの飼育をはじめたことで、同じ水の中に住む生き物でも好む場所、泳ぎ方、好む餌が違う事に気が付き子どもたちから様々な反応がある

(活動中の子どもの姿、声、子ども同士や保育者との関わり)

- ・ドジョウを見て、保護者の方が見せてくれた安来節を思い出し「あらえっさーさー」と歌いかける子どもたち。ドジョウが水槽の上の方に上がってくると、どじょうには耳があり耳が聞こえているんじゃないかと喜ぶ姿があった。また、お腹が赤い事に気が付いて「赤いご飯（赤虫）を食べているから赤いのかな〜？」と呟く子がいた。周りの子も「じゃあ、黒いご飯あげたら黒になるかも？」とワクワクしている。毎日水槽をのぞき込み愛着を持って飼育している。
指を入れると口でつんつんとつついてくると担任が気付くと子どもたちも指を入れてみている。
ある日、ドジョウが1匹足りない事に気付く。水槽からとびだし亡くなっていた。
子どもたちはドジョウが跳ぶのだと驚きを隠せない。その後もドジョウの死が重なる。「どうして死んじゃったんだろう？」と担任が問いかけると、「ドアのそばだから寒かったんじゃない？」「お掃除もったしたほうがよかったかな？」「お水が少なかったんじゃない？」と気温や水量などに言及する子もいた。「またドジョウ飼いたい」と言う子。水辺の生き物のポスターを指さし「これがいい！」と飼育したいものをクラス内で話しあう子どもたち。自分がその生き物を飼いたい理由を伝え合う。それぞれ必死にその生き物の良さを伝え合っていた。その中でアカハライモリのポスターをみて、「カエルみたいに手があるよ！カエルみたいに跳ぶんじゃない？」とカエル跳びをして見せる子どもたちの姿があった。「手はあるけど、足はないんじゃない？しっぽしかないよ！」と一人の子が言うと、「足もあると思う！」と別の子が考えを述べる。「指は何本だろう？みんなと同じ5本かな？」担任が問いかけると、図鑑をみて数える子。そこで、実際にアカハライモリを飼育することにした。また、前回とは違う種類のドジョウとメダカと種類を増やし、子どもたちと飼育場所を決め探究活動を再開。
現在も探究活動を楽しんでいる



5. 振り返り

言葉で聞いていた「どじょう」を実際に見て観察し飼育する中で様々な気づきがあった。
子どもたちが感じたこと、思い、考えを自分の言葉で伝えられるようじっくり話を聞くこと
お友達の考えにも新たな気づきを得る事が出来るよう心掛けた。体の一部の色が餌と同じことに気づき
考えを巡らせるなど思いもよらない子どもの発想の豊かさに驚いた。
環境を用意し子どもの興味関心を引き出すこと。教えるのではなく子どもが自分で気づき新たな問いをもち、更に考えをめぐらすことが出来るよう見守り環境を整備することが大切であると感じた

